

スポーツによる地域活性化と地域連携＜ツーリズムの視点から＞ 大隅半島での取り組み

石 田 一 彦*

今日ご出席の方々の中には、この未来会議を立ち上げるために2年半一緒に苦勞していただいた方が15～16人いらっしゃいます。DMOのご紹介というのなかなか難しいので、むしろ今日のテーマでありますスポーツについてということをもう少ししっかりと作ってくれば良かったかなと思います。

まず、未来会議、この大隅半島ではどういったことをやっているのかというご紹介を駆け足でしたいと思います。おおすみ観光未来会議は先ほどから出ています日本版DMOという組織です。観光に関連される方は非常によくご存じかと思いますが、そうでない方に簡単にご紹介しますと、Destination Management Marketing Organizationの略でして、何をするかというと、観光地経営というのが1つ大きな目的になります。デスティネーションはいわゆる観光目的地、Mについては2つの意味がありまして、マネジメントとマーケティング、マーケティングを基礎としたしっかりとした経営をなさよという組織であるということです。

私どもの会社は、実は2016年に任意団体で発足しました。これは、今日も大勢いらっしゃっていますが、大隅半島4市5町の行政の方々を中心に任意団体の組織化を図っていただき、先ほど申しあげたように2年半かかって昨年8月1日に株式会社化しました。大隅半島4市5町の行政が45パーセント、それから民間32社の方々に出資していただいて資本金500万円の会社を設立しました。

ここが何をするかということですが、一応これは国連で言っているDMOの役割みたいな形ですが、マーケティング活動をする、それから観光の資源を開発すること、そして人材育成・産業育成をすること、ただしそれぞれの地域資源をしっかりと使ってというのが条件になっています。ですから、大隅半島においては大隅半島の資源をしっかりと使った上で観光資源開発、人材育成、マーケティングをなさよというの

が国連の言っているDMOの役割です。

大隅半島の資源の中で、今日のテーマでありますスポーツということを考えますと、やはりこちらになるのかなと思います。鹿屋体育大学の自転車競技、そして高校生では南大隅高校の自転車競技部、こちらは非常に強い選手をたくさん持ってまして、国際大会・世界大会にも行っていらっしゃいます。それと、今日も代表がいらっしゃるシエルブルー鹿屋という、プロの選手、リオ五輪にも出場したプロ選手を抱えている自転車競技のチームを持っていらっしゃいます。自転車というのがやはり非常に大きな資源としてこの大隅にはあると思っています。



自転車関連で私どもが講演会ですとかレポートとかでお手伝いした部分をご紹介します。一昨年度の事業ですが、昨年2月、国にお願いして大隅半島を中心としたサイクルツーリズムによる動向調査をかけていただいて、レポートをいただきました。それから、もうつい先週の話ですけれども、自転車のまちおこし・地域づくりで先進事例でありますしまなみ海道のほうから、その立ち上げをされたシクロツーリズムしまなみというところが宇都宮さんという方に来ていただいて、講演をしていただきました。こういった企画を私どもでやっています。

私ども独自で観光という視点からいいますと、観光

* 株式会社 おおすみ観光未来会議

のあり方がもうずいぶん変わってきていて、これまでのように、かっこの中に書いてありますが、発地型という観光から着地型に変わっています。これは何かというと、旅行会社がセッティングして、どうぞ向こうのほうに行きませんかという発地型の旅行から、やはりこっちへ来てください、こっちにこういうものがたくさんいいものがありますから来てくださいと言って、この大隅であれば大隅のほうの商品を作ってお呼びするという形に変わっています。その中で体験プログラムを2年続けて作りましたが、その中でスポーツに関連するものはこういったプログラムも提供しました。サイクリングとかアウトドアキャンプとか、パラセーリングとかキャニオニング、こういったものを提供しました。ついこの間、2018年のスポーツ文化ツーリズムアワードというところの授賞式があって、この下の写真を見たところ、プログラムで提供したものとすごく似ています。ほぼほぼ同じようなものがやはりアワードの中でも受賞されています。やはり方向性として大隅で展開できるアウトドアというのは、非常にいいのだらうと思っています。

こういったものを提供しながら、もちろん今日のテーマはスポーツということですが、やはり地域の方々が観光客をどう迎えるかといったところが非常に大きなテーマです。2年半前に私が大隅半島の観光組織を立ち上げましょうというときに、皆さんに、地域の方々にお聞きしました。大隅のことをどれだけ知っていますかとお聞きしたのですが、実はあまりご存じなかった、地元のことをご存じなかったのです。いろいろ地元のことを皆さんで学んでいこうということをやったところ、大隅のことを知れば知るほどやはり自慢したくなるということが分かりました。これは、先ほど二宮先生がおっしゃった地域愛着ということになってくるかと思いますが、そこで地域に誇りを持つということで、今よく言われているシビックプライド、おもてなしというのでしょうか、これが芽生えてくると思っています。

その流れの中で2つほど行っています。1つは左側にありました、大隅の人と暮らしにスポットを当てた情報誌を発行しまして、『breath』というのですが、ここに出ているが第1号です。皆さんの手元に第2号をお配りしていますが、この中に鹿屋体育大学さんのご紹介もしていて、そこで地域がこんなふうにして皆さんとスポーツと一緒にやっているということをご紹

介しました。

それからもう1つはおおすみ学校という名前を付けています。これは体育大学のような学校法人ではなく、本当に市民講座です。大隅の自然・文化・歴史・産業といったものを学ぶための学校をつくり、今まで7回開催しています。1回目から7回目はこういった方々に講師になっていただいて、例えば内之浦の宇宙研究所の峰杉所長ですとか、鹿児島大学の木村先生です。ちなみに木村先生は去年プラタモリに2週間連続で解説していただいたような鹿児島大好きの先生です。そういった方に来て講演していただいています。この間の7回目が鹿屋体育大学を使わせていただいて、前田先生にスポーツパフォーマンス研究センターというところのご紹介をしていただきました。市民の方々は、こんなすごい施設があるのだと、巨人軍の誰々が来たとか、いろいろな裏話もお聞きしました。こんな形で私ども未来会議もスポーツと一緒にこの地域を盛り上げていこうと思っています。

資料にはありませんが、先ほど京都の話が先生がなさって少し思い出しました。鹿児島県で昨年1年間で観光客の方が使っていたいただいたお金は2800億円です。東京オリンピック・パラリンピックに向かってあるいは鹿児島国体がありますので、それに向かっていく目標を立てるかということが非常に今大きな話だと思います。今、鹿児島県全体で2800億です。先ほど話していた京都市1つが、2020年にいくら目標を立てていらっしゃるか想像してみてください。実は1兆円です。1兆円の消費額を京都市は狙っているということです。観光消費額は2020年に、海外の方からは8兆円もらいましょうという政府の目標がありますけれども、日本の国全体の国民が旅行するということも合わせて、実は目標が29兆円です。そのうちの1兆円を京都市1つで取ろうという、これは観光にとってはすごいことを目指しています。今、鹿児島県全体で2800億で、その中の大隅はまだまだ少ないですけども、やはり1000億とか2000億を目指すようなことをやっていきたいと思っていますし、それには今日お話いただいたスポーツが非常に大きなテーマになってくると思っています。

最後にまた少しご紹介です。私どもとしてはイベントでこんなこともしています。今、大隅半島全体で、廃校になった小学校と中学校を合わせると約100ありますその廃校をどう上手に生かしていこうかというこ

との取っ掛かりで、一昨年11月に鹿屋市の神野という地区の神野小学校の廃校を利用して、1日限りのドリームレストランを作りました。門倉多仁垂さんという料理研究家の方にご協力いただいて、教室を使ってレストランを開きました。

とても好評だったのですが、そこに、鹿屋体育大学の栄養学の長島先生がお客さまで来ていただきました。長島先生が、このイベントで召し上がったお米がものすごくおいしいと、神野のお米だったのですが、すごくおいしいということで、長島先生が顧問をされているという神村学園というスポーツの盛んな学校の給食に、昨年のお米から入れてくれました。神村学園のお米が変わったのです。その結果、何が起きたかという、もうお分かりかと思いますが、こうなりました。先月23日、全国高校駅伝で女子の部、神村学園が優勝したということで、本当に地域のものを使って地産地消という形で優勝を勝ち取ったという、非常にうれしいニュースが来ました。

私ども、これからもいろいろな形で地域を盛り上げていきたいと思っていますので、先ほど坂口先生のおっしゃった××に早くなれるように、頑張っていきたいと思っていますので、よろしく願います。ありがとうございます。

(北村)：ありがとうございます。

二宮先生からコメントをお願いします。

(二宮)：非常に興味深いお話ありがとうございます。

最初のほうで自転車競技がほかと違うというところで鹿屋体育大学の自転車部やプロの自転車の選手がおられたりという形で、これが非常に大きな魅力だと思います。全国でサイクリングで地域おこしをしているところは非常に多く、しまなみ海道もそうですし、琵琶湖を1周するピワイチとかもそうですが、サイクリングロードの整備はされているけれどそこにプロとかそういったトップレベルの存在がありません。それが大隅地区は持っているということで、それは非常に強みだと思いますので、ぜひそれを生かすようなイベントをやっていただければと感じました。

もう1点が大隅半島の、先ほど私からアドベンチャーツーリズムを取り入れたらどうかという提案をさせていただいたのですが、大隅半島はご紹介にあつ

たようにアドベンチャーツーリズムをするコンテンツが非常に充実していると思いますので、可能性としては非常にあると思います。錦江湾に桜島があって溶岩があるような地形というのも、全国的に見ても世界的に見ても珍しいと思います。そういったアドベンチャーツーリズムの可能性というのを、今こういうことができたらいなという構想が何かをお持ちでしたらお教えいただきたいです。

(石田)：今おっしゃったように、大隅は本当に自然が豊かといいますか、手付かずの自然が非常に多い所です。そこにハイキング、ウォーキング、それから先ほどのキャニオニングも含めてどんどんやっていきたいと思っています。そこには大きな課題がございまして、安全性といいますか、ガイドも含めた安全をどう確保するのかということが非常に大きな話になるかと思っています。これは観光地の案内もそうですけれども、大隅半島は非常に人口が少ないため、きれいなところに行けば行くほど人がいません。ですから、そこをどういう形で安全性を確保するかというのが非常に大きな課題でございまして、今、非常に機械化が進んでいますので、新しいスマホを使っていろいろなガイドをしてもらうという形も考えていますがまだそのプログラムを組む前の課題解決というものを非常にテーマとして考えている状況です。

(二宮)：

先ほど、打ち合わせでも指導者の問題、インストラクターの問題と言っていたと思いますが、事故に対するリスクマネジメントというのは必ずしないといけないと思いますので、アウトドアスポーツのガイドの養成であったり、インストラクターの養成であったり、それから資格認定制度、そういった取り組みもリスクマネジメントの観点からは必要ではないかと感じました。ありがとうございます。

スポーツによる地域活性化と地域連携＜ツーリズムの視点から＞

大隅半島での取り組み

2019年1月31日

株式会社 おおすみ観光未来会議

■株式会社おおすみ観光未来会議は日本版 DMO（候補団体）→ 認定102 候補121
（2019年1月現在）

■ DMO → Destination Management/Marketing Organization = 観光地域経営組織

観光地域経営 = 「地域資源を使って」

①マーケティング活動 ②観光資源開発 ③人材育成, 産業育成

■地域資源の代表格 = 鹿屋体育大学自転車競技部をはじめとするサイクルスポーツ
・国土交通省での大隅サイクルツーリズム動向調査（2018/3）
・先進地事例講演会（2019/1/22）

■国内観光の構造変化 → 発地型（行こうよ）から着地型（おいでよ）地域が観光客を呼ぶ

体験型プログラム「大隅手帖」→ アウトドアスポーツを中心にプログラム
「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」も同様のプログラム

■「知る」→「自慢したくなる」→「地域への誇り」CIVIC PRIDE
①大隅の人と暮らしに SPOT を当てた情報誌「breath」発行
②誰でも参加できる市民講座「おおすみ学校」